



江戸の昔
十一



よふゆひをてれづらぬ。

茶の不言新ては一段の経路をす。古源経也

まじりたるものゆへに普門等しくす。八講一久しき。まじりたる日

普修

結文

聖日

中野あふくわつりてあまびい文はうけらる。

名ハ賜子

ヨシア

カネ

中野あふくわつりてあまびい文はうけらる。

佛のつらさ

新に高きものゆへに普門等しくす。まじりたる日

とまじりたるものゆへに普門等しくす。まじりたる日

佛のつらさ

又びりり母のみ。まじりたるものゆへに普門等しくす。

母上の文を

引のつらさ。まじりたるものゆへに普門等しくす。

母上の文を

下首のつらさ

まじりたるものゆへに普門等しくす。まじりたる日

まじりたるものゆへに普門等しくす。まじりたる日

まじりたるものゆへに普門等しくす。まじりたる日

まじりたるものゆへに普門等しくす。まじりたる日

まじりたるものゆへに普門等しくす。まじりたる日

まじりたるものゆへに普門等しくす。まじりたる日

まじりたるものゆへに普門等しくす。まじりたる日

まじりたるものゆへに普門等しくす。まじりたる日

まじりたるものゆへに普門等しくす。まじりたる日

まじりたるものゆへに普門等しくす。まじりたる日

まじりたるものゆへに普門等しくす。まじりたる日

まじりたるものゆへに普門等しくす。まじりたる日

まじりたるものゆへに普門等しくす。まじりたる日

遊子於此の月小紅と云ふに似てはまゝの月と云ふに似ては

朗保暁の題

佳人尽飾於晨粧魏字鐘動遊子於此月面含鵲鳴

少遊京

かやうのうさぎをまよふとくわむひさへつらぐれは行くさよふは

隆四

僧都のまればめくみくげよとて圓めまのけが移ふわね

東鑑才二治業五通回二月七日癸丑武衛沙延と細致石湯

乳母之青女 名今 暑尼号 藤 清少信の事と引彼

ねむらう板ぶさのもちらんまをさくくわめはんはいつはね

きむわい侍うんそあんはさめげりの事とまをさくくわめはんはいつはね

とてはらうはらうのふかりなりしはふささあははらうの事とまをさくくわめはんはいつはね

とてはらうはらうのふかりなりしはふささあははらうの事とまをさくくわめはんはいつはね

林

ゆさけめてはりたれ家よりなん。おはらうとまをさくくわめはんはいつはね

るぞははらうのふかりなりしはふささあははらうの事とまをさくくわめはんはいつはね

なんはらうのふかりなりしはふささあははらうの事とまをさくくわめはんはいつはね

みくげよとて

みくげよとてはらうのふかりなりしはふささあははらうの事とまをさくくわめはんはいつはね

とまをさくくわめはんはいつはね

すふ人の家よりけりるまをさくくわめはんはいつはね

かよのねとまをさくくわめはんはいつはね

ふあせとまをさくくわめはんはいつはね

ふあせとまをさくくわめはんはいつはね

り書あり
極福を授けりよと云くは、極福を授けりよと云くは、極福を授けりよと云くは、

家康公の上の御の袴。その御袴。その御袴。その御袴。その御袴。

又家康の袴。御の袴。御の袴。御の袴。御の袴。御の袴。御の袴。御の袴。

ひーと云くは、ひーと云くは、ひーと云くは、ひーと云くは、ひーと云くは、

これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、これ、

くさくさ、くさくさ、くさくさ、くさくさ、くさくさ、くさくさ、くさくさ、

動物之源、動物之源、動物之源、動物之源、動物之源、動物之源、

長徳四年十月十五日任右中納言、長徳四年十月十五日任右中納言、長徳四年十月十五日任右中納言、

彈正弼一人職、彈正弼一人職、彈正弼一人職、彈正弼一人職、

又の御の、又の御の、又の御の、又の御の、又の御の、

●病を

し存のけ、し存のけ、し存のけ、し存のけ、し存のけ、

胸者肺之位也、胸者肺之位也、胸者肺之位也、胸者肺之位也、

肺者附著於背之上、肺者附著於背之上、肺者附著於背之上、

脚氣大成論、脚氣大成論、脚氣大成論、脚氣大成論、脚氣大成論、

金論脚氣皆由感、金論脚氣皆由感、金論脚氣皆由感、

経曰地之風寒暑濕、経曰地之風寒暑濕、経曰地之風寒暑濕、

ナレげあの人、ナレげあの人、ナレげあの人、ナレげあの人、

病感、病感、病感、病感、病感、病感、病感、病感、病感、

額髪、額髪、額髪、額髪、額髪、額髪、額髪、額髪、額髪、

三位上沙弥尼。四位沙弥尼。五位沙弥尼。六位沙弥尼。

七位沙弥尼。八位沙弥尼。九位沙弥尼。十位沙弥尼。

十一位沙弥尼。十二位沙弥尼。十三位沙弥尼。十四位沙弥尼。

のありき

家の来るていづるも。わづらひし。わづらひし。わづらひし。わづらひし。

ついでりて。をのづらひし。わづらひし。わづらひし。わづらひし。

神のつらひし。わづらひし。わづらひし。わづらひし。わづらひし。

目よふ。わづらひし。わづらひし。わづらひし。わづらひし。

あづらひし。わづらひし。わづらひし。わづらひし。わづらひし。

人のつらひし。わづらひし。わづらひし。わづらひし。わづらひし。

よふ。わづらひし。わづらひし。わづらひし。わづらひし。

由はの。わづらひし。わづらひし。わづらひし。わづらひし。

ふ。わづらひし。わづらひし。わづらひし。わづらひし。

わづらひし。わづらひし。わづらひし。わづらひし。

え。わづらひし。わづらひし。わづらひし。わづらひし。

か。わづらひし。わづらひし。わづらひし。わづらひし。

ゆ。わづらひし。わづらひし。わづらひし。わづらひし。

あ。わづらひし。わづらひし。わづらひし。わづらひし。

い。わづらひし。わづらひし。わづらひし。わづらひし。

う。わづらひし。わづらひし。わづらひし。わづらひし。

母の風流をいふ

てなまらひをなまらひとていふは

あまのまらひをなまらひとていふは

まらひをなまらひとていふは

まらひをなまらひとていふは

三
三
三

九月のつゆの月のはらけ

あまのまらひをなまらひとていふは

あまのまらひをなまらひとていふは

あまのまらひをなまらひとていふは

あまのまらひをなまらひとていふは

あまのまらひをなまらひとていふは

あまのまらひをなまらひとていふは

あまのまらひをなまらひとていふは

あまのまらひをなまらひとていふは

あまのまらひをなまらひとていふは

あまのまらひをなまらひとていふは

あまのまらひをなまらひとていふは

あまのまらひをなまらひとていふは

あまのまらひをなまらひとていふは

あまのまらひをなまらひとていふは

あまのまらひをなまらひとていふは

あまのまらひをなまらひとていふは

あまのまらひをなまらひとていふは

あまのまらひをなまらひとていふは

あまのまらひをなまらひとていふは

Handwritten text in cursive script, likely a continuation from the previous page.

昔縫 肩寄

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

所くわねん。...
世の人の心

史記正義の司馬遷字子長左馮翔人也漢武帝時為太史

是より...
是より... 史記正義の司馬遷字子長左馮翔人也漢武帝時為太史

史記正義の司馬遷字子長左馮翔人也漢武帝時為太史

史記正義の司馬遷字子長左馮翔人也漢武帝時為太史

史記正義の司馬遷字子長左馮翔人也漢武帝時為太史

史記正義の司馬遷字子長左馮翔人也漢武帝時為太史

史記正義の司馬遷字子長左馮翔人也漢武帝時為太史

史記正義の司馬遷字子長左馮翔人也漢武帝時為太史

史記正義の司馬遷字子長左馮翔人也漢武帝時為太史

史記正義の司馬遷字子長左馮翔人也漢武帝時為太史

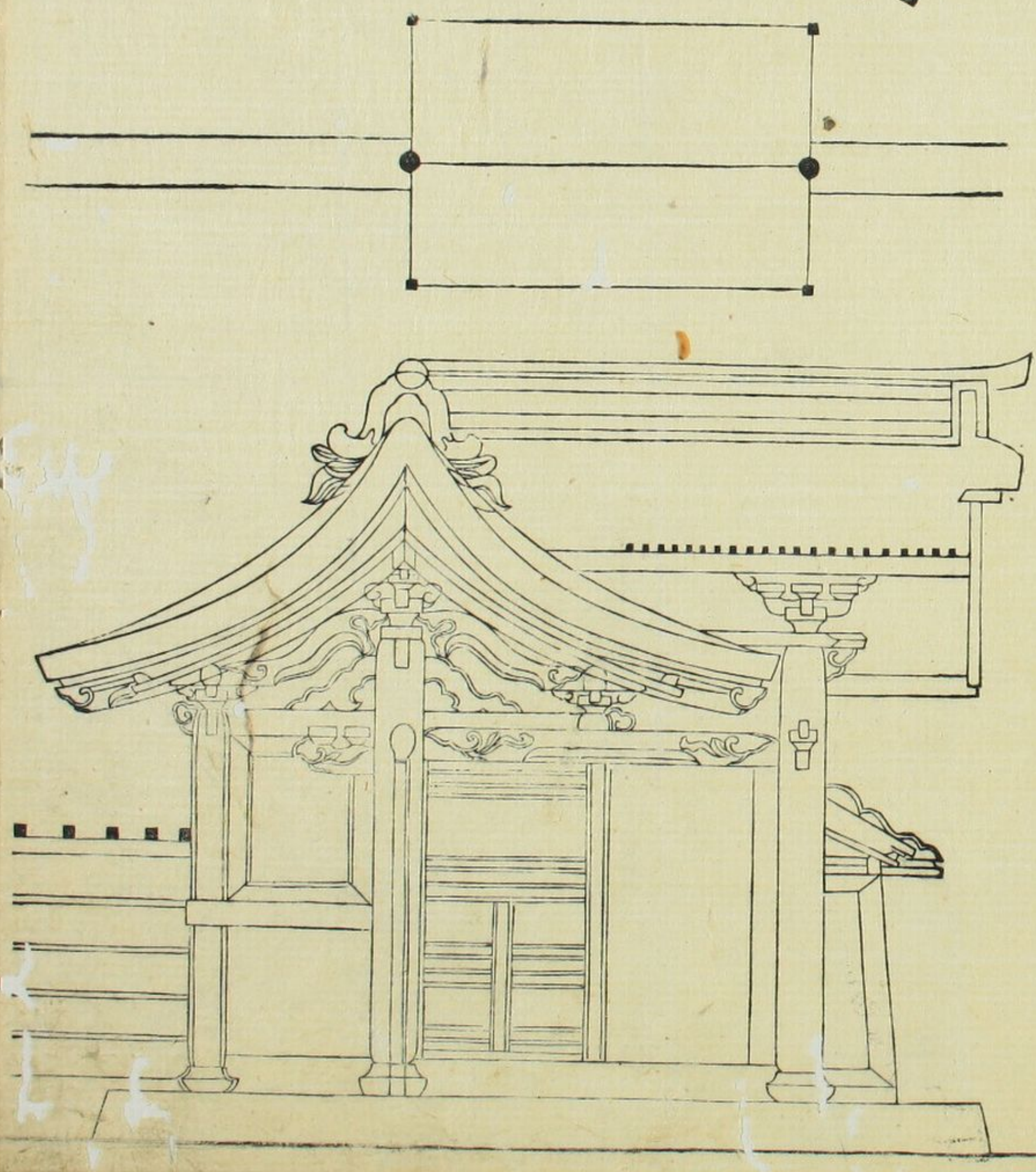
史記正義の司馬遷字子長左馮翔人也漢武帝時為太史

清少納言旁註卷第十一了
大正

又奥より源経房朝臣西宮左大臣三男母九女長徳元二女
 後蹟御同母才伊勢守長徳元二女也此草紙長徳元二女事
 多書加次（カシ）

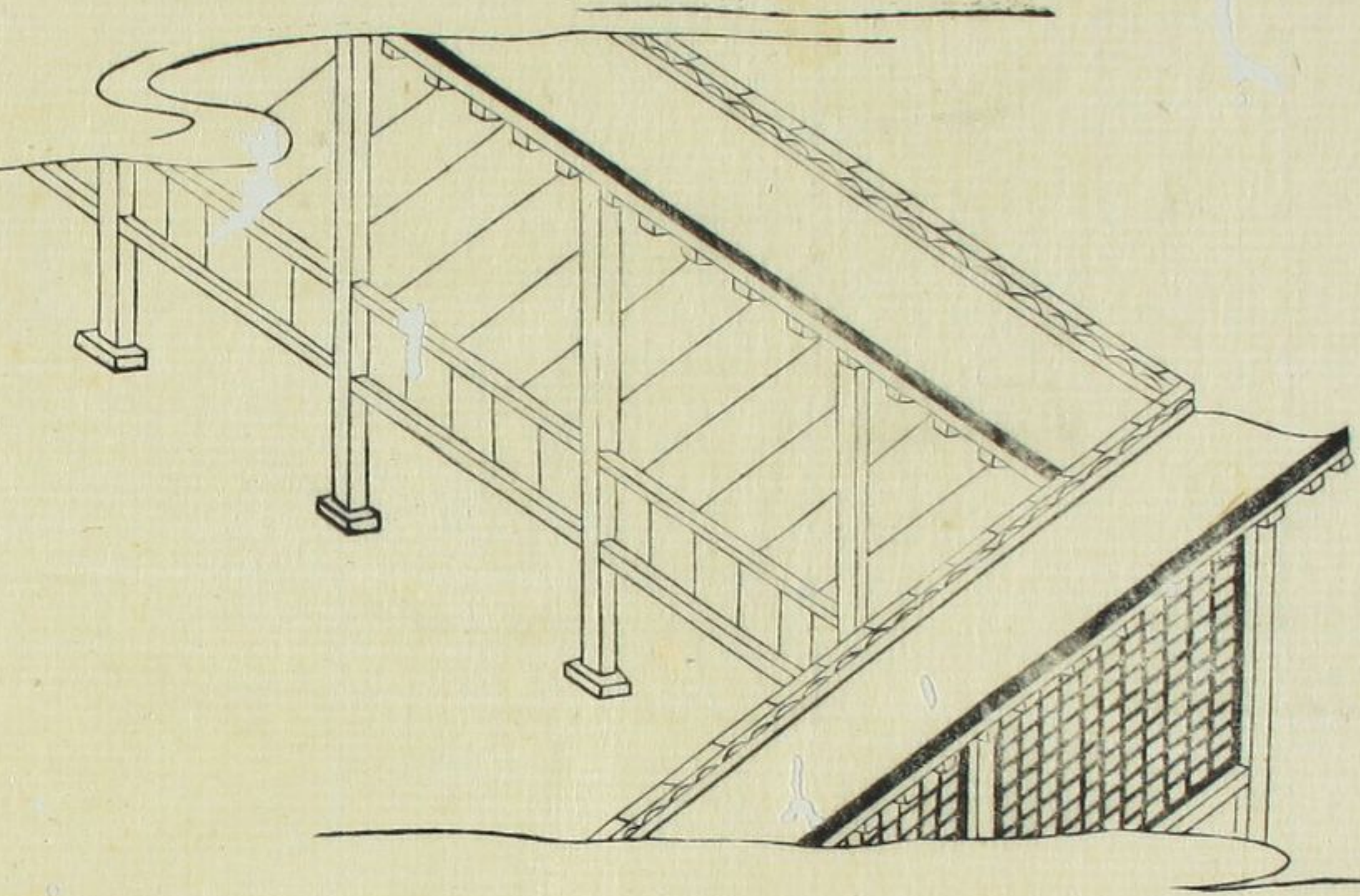
又奥より源経房朝臣西宮左大臣三男母九女長徳元二女
 後蹟御同母才伊勢守長徳元二女也此草紙長徳元二女事
 多書加次（カシ）

四脚門



廊

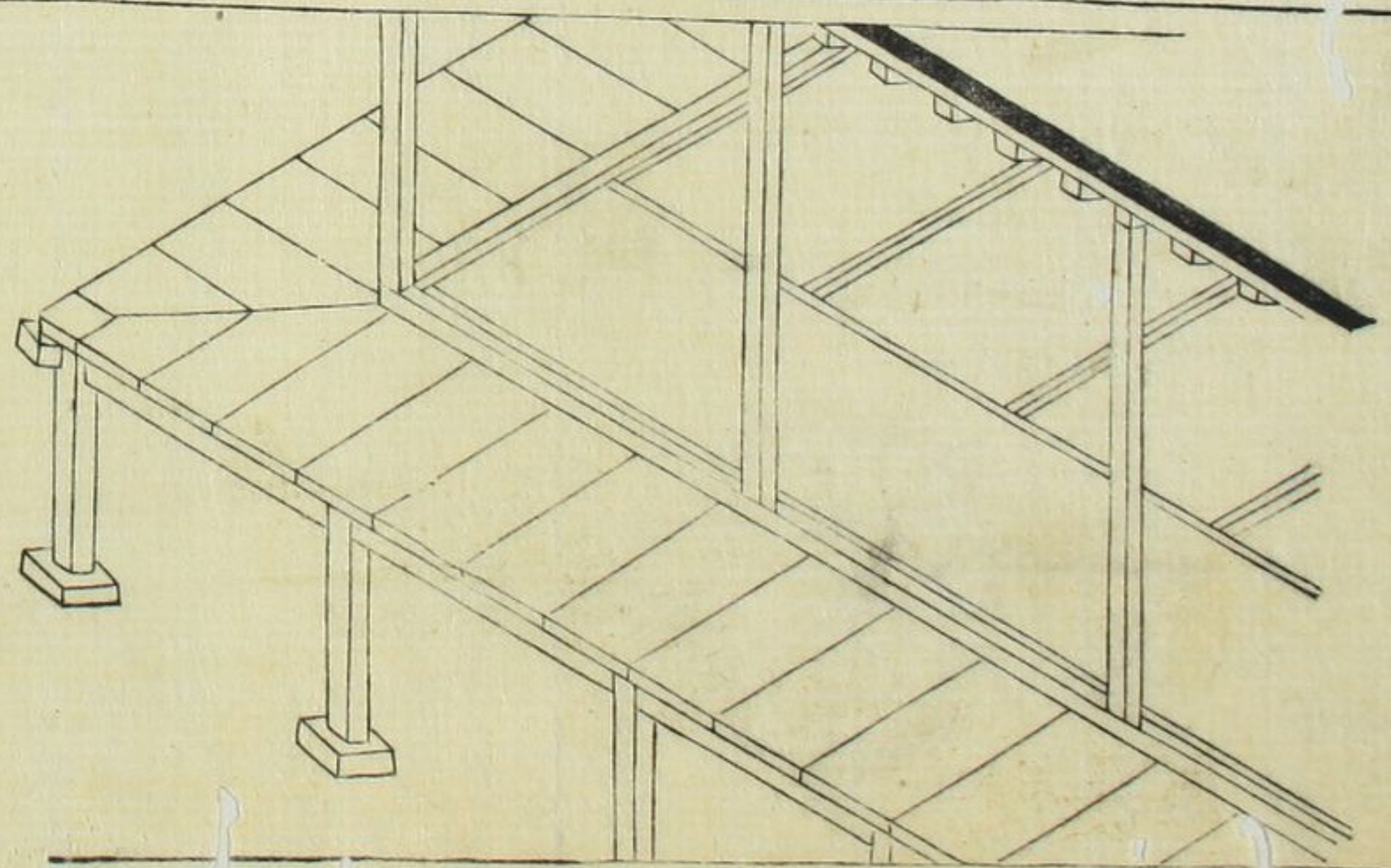
ひそよのまの



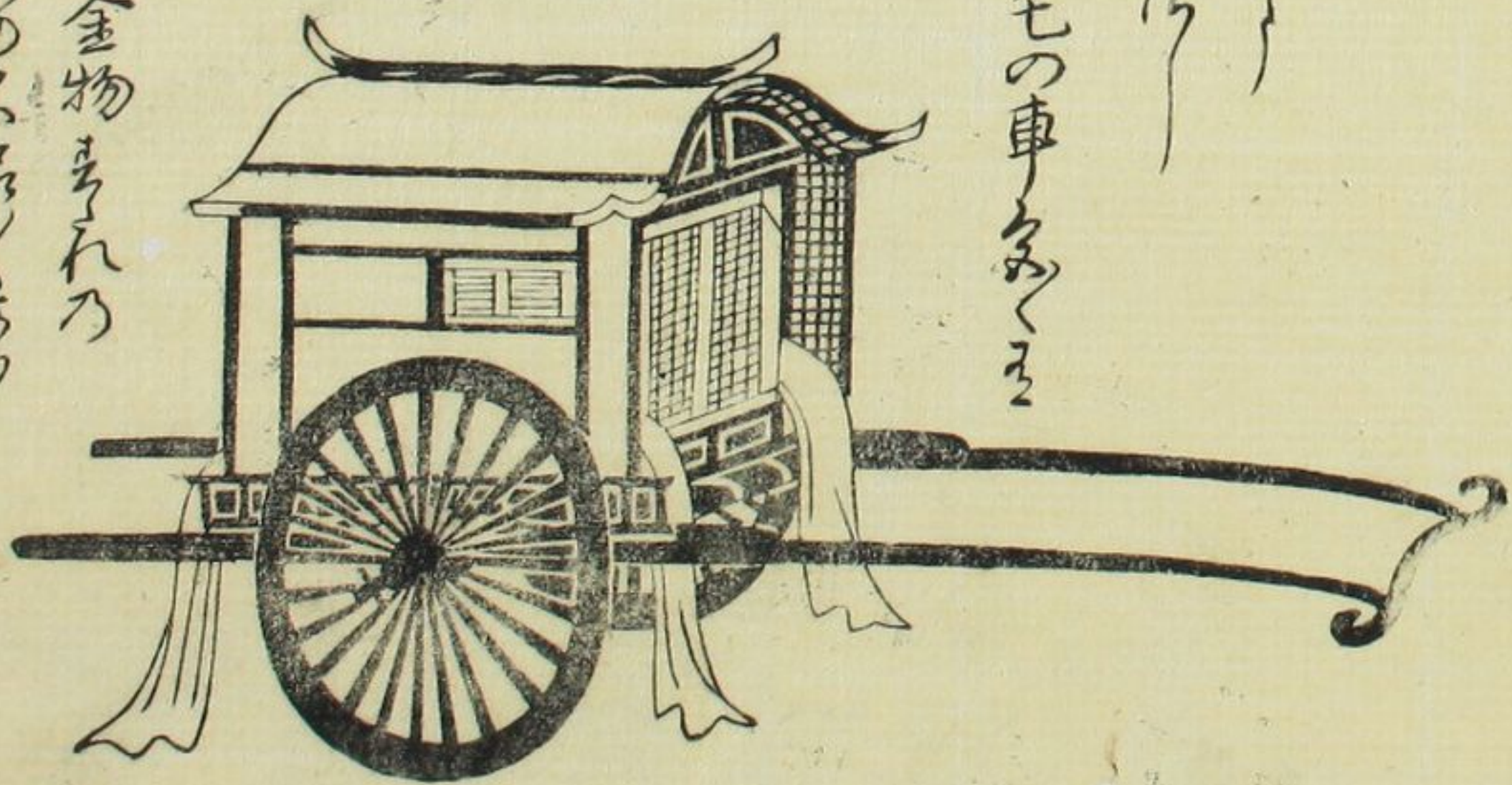
鳳
輦



のり

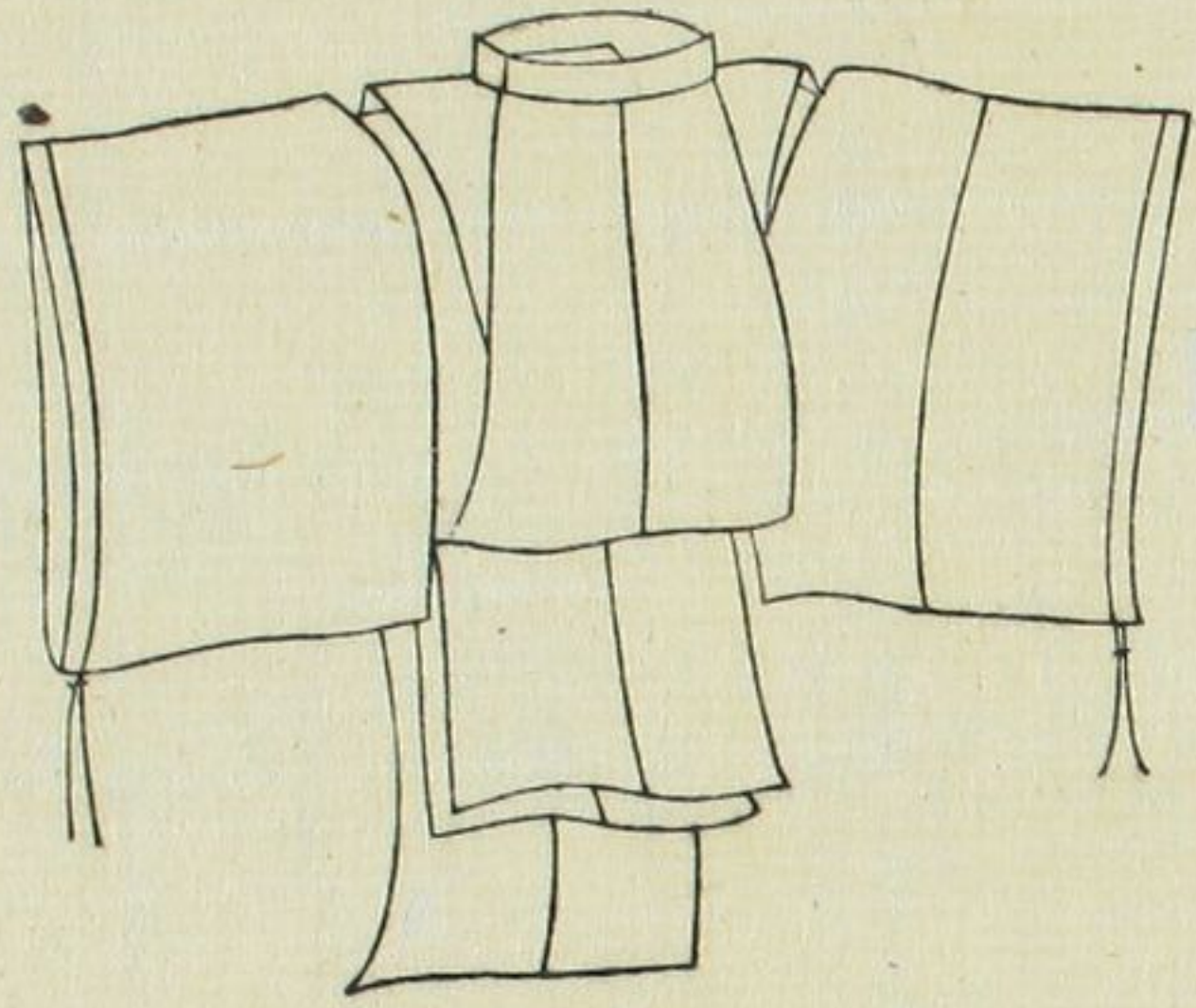


くろ
か
檣
柳
毛
の
車
あ
く
ま



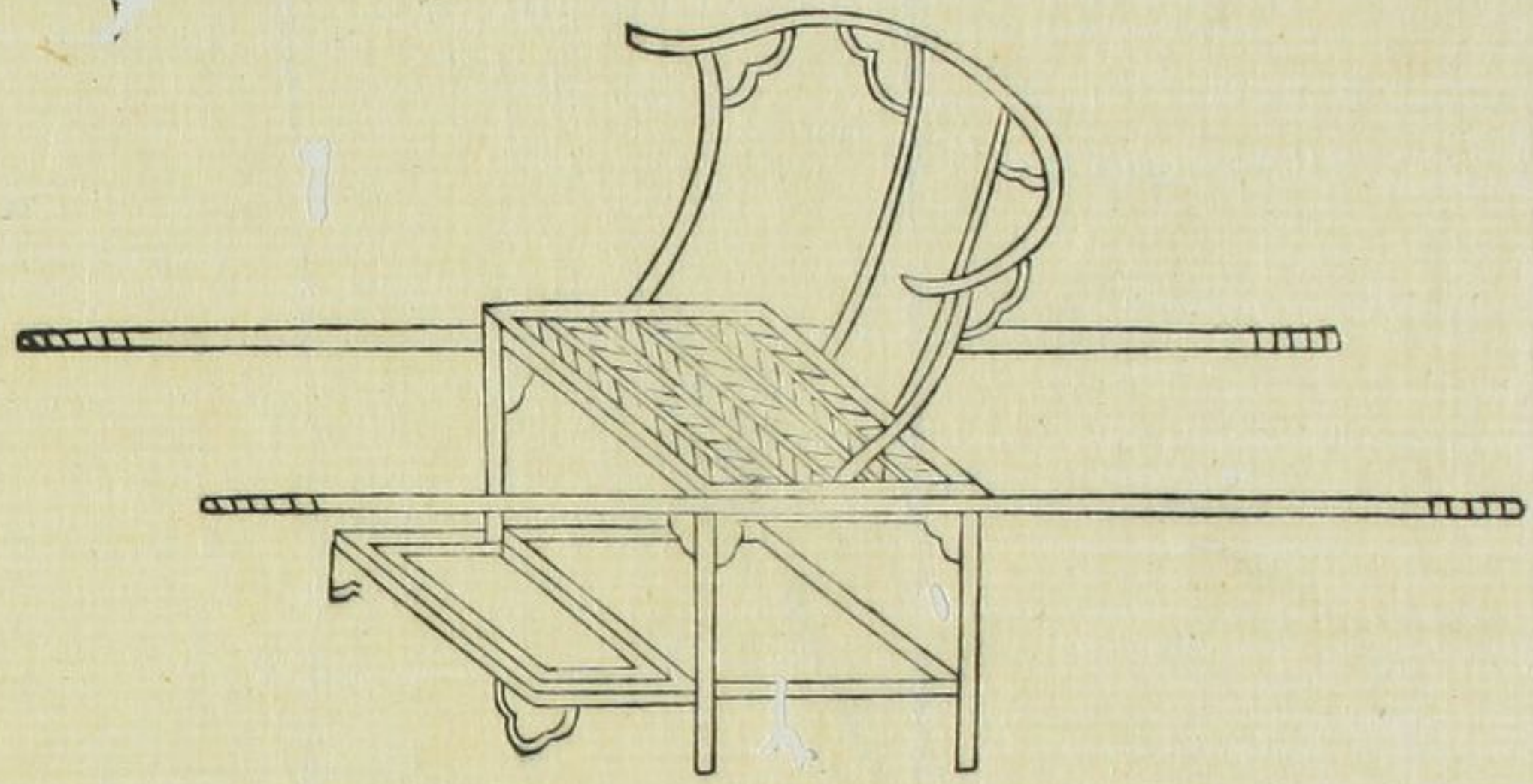
わ
り
や
う
金
物
ま
れ
乃
あ
ま
糸
丁
の
名
呂
く
ら
り

紋のわたりをさぬもの
印

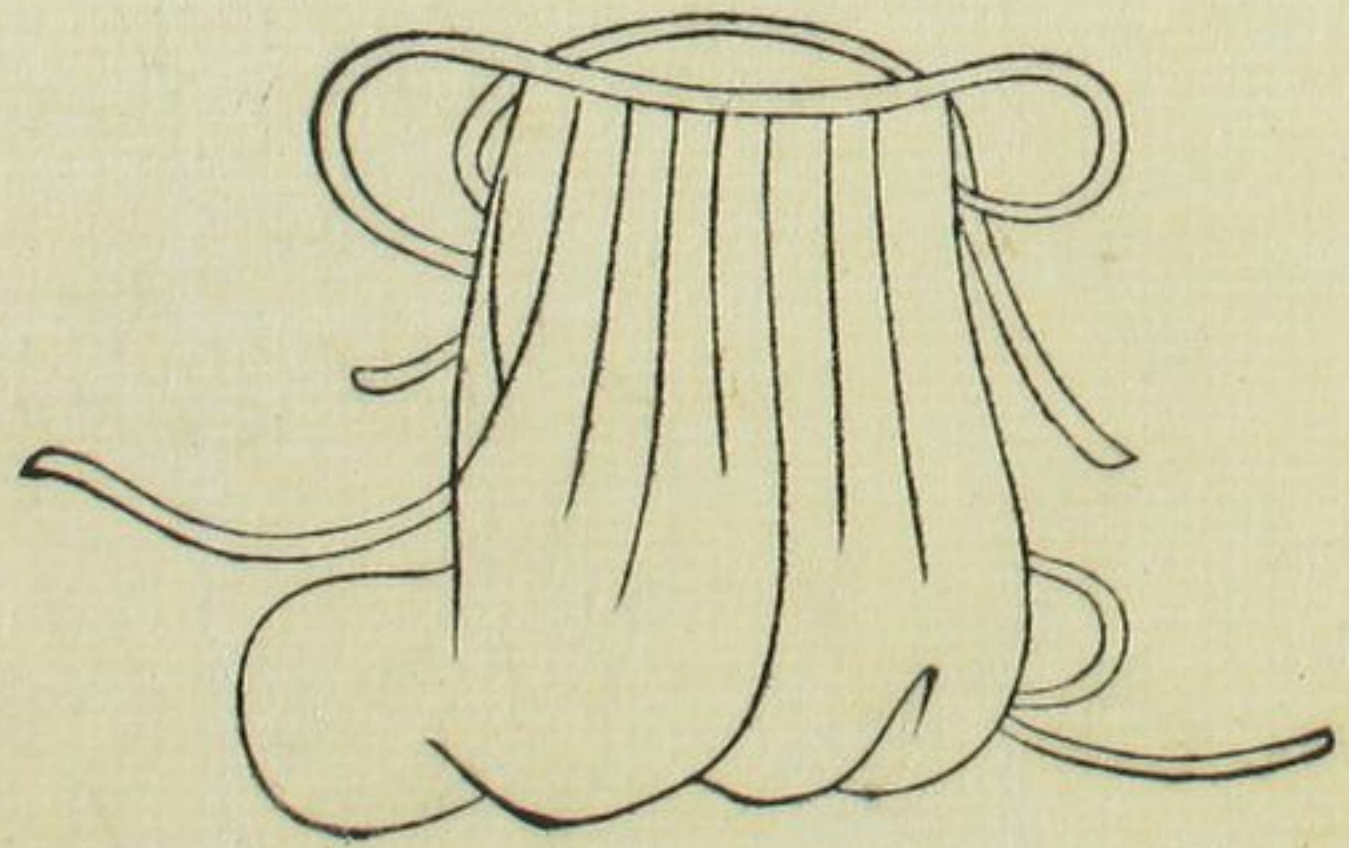


布衣 下官の服也

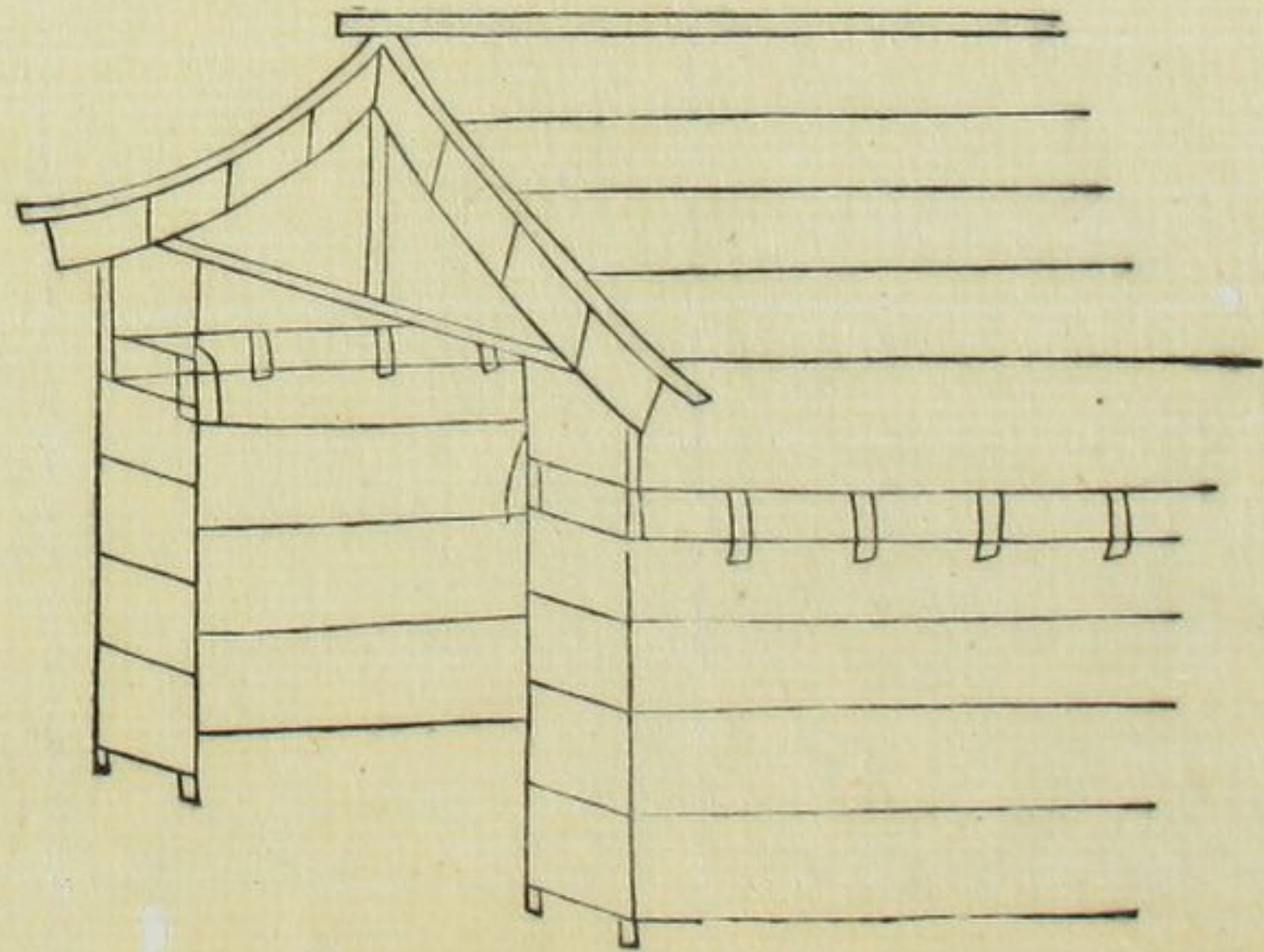
ちりめん



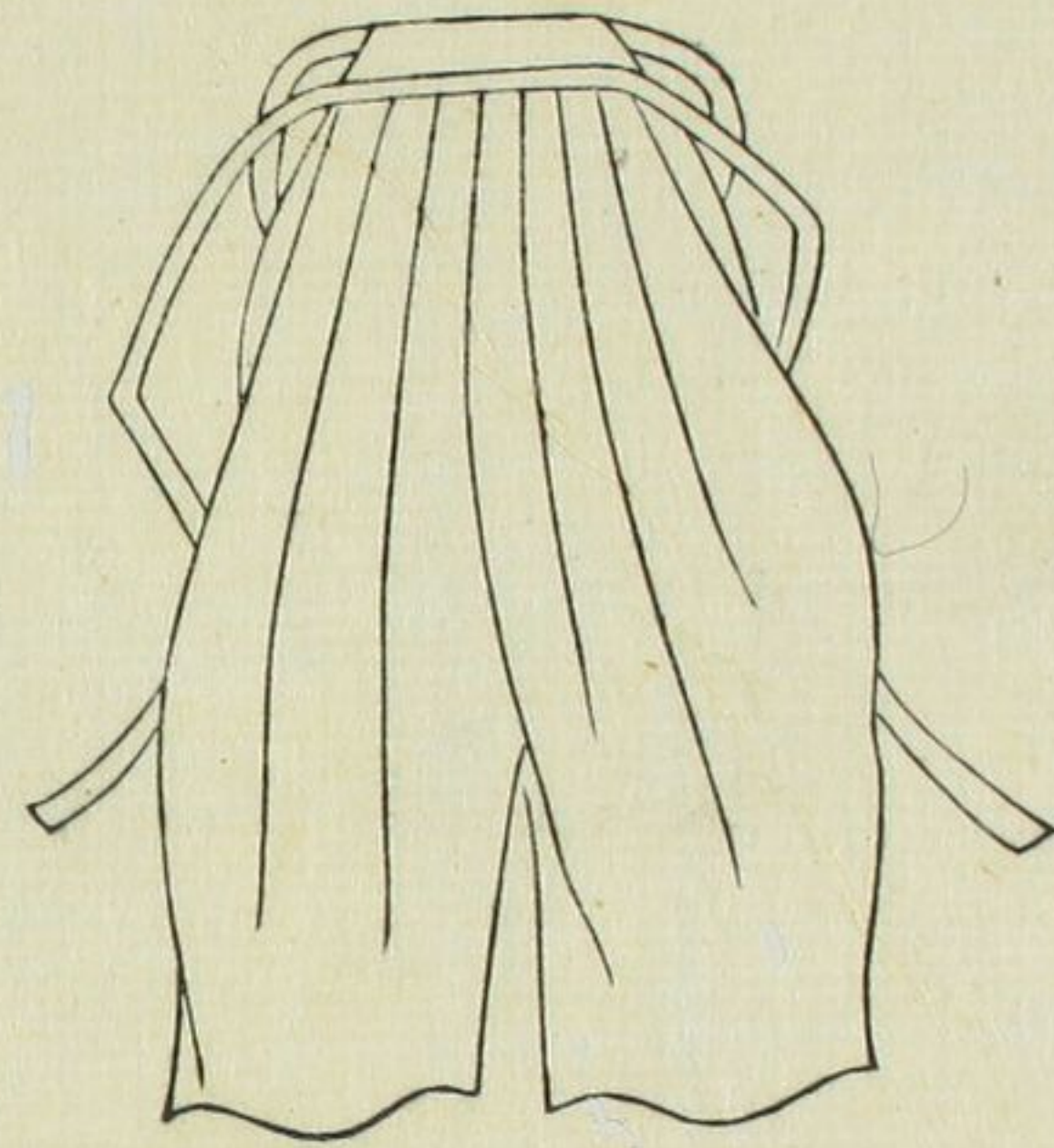
まぬしものしほ



ちりめん

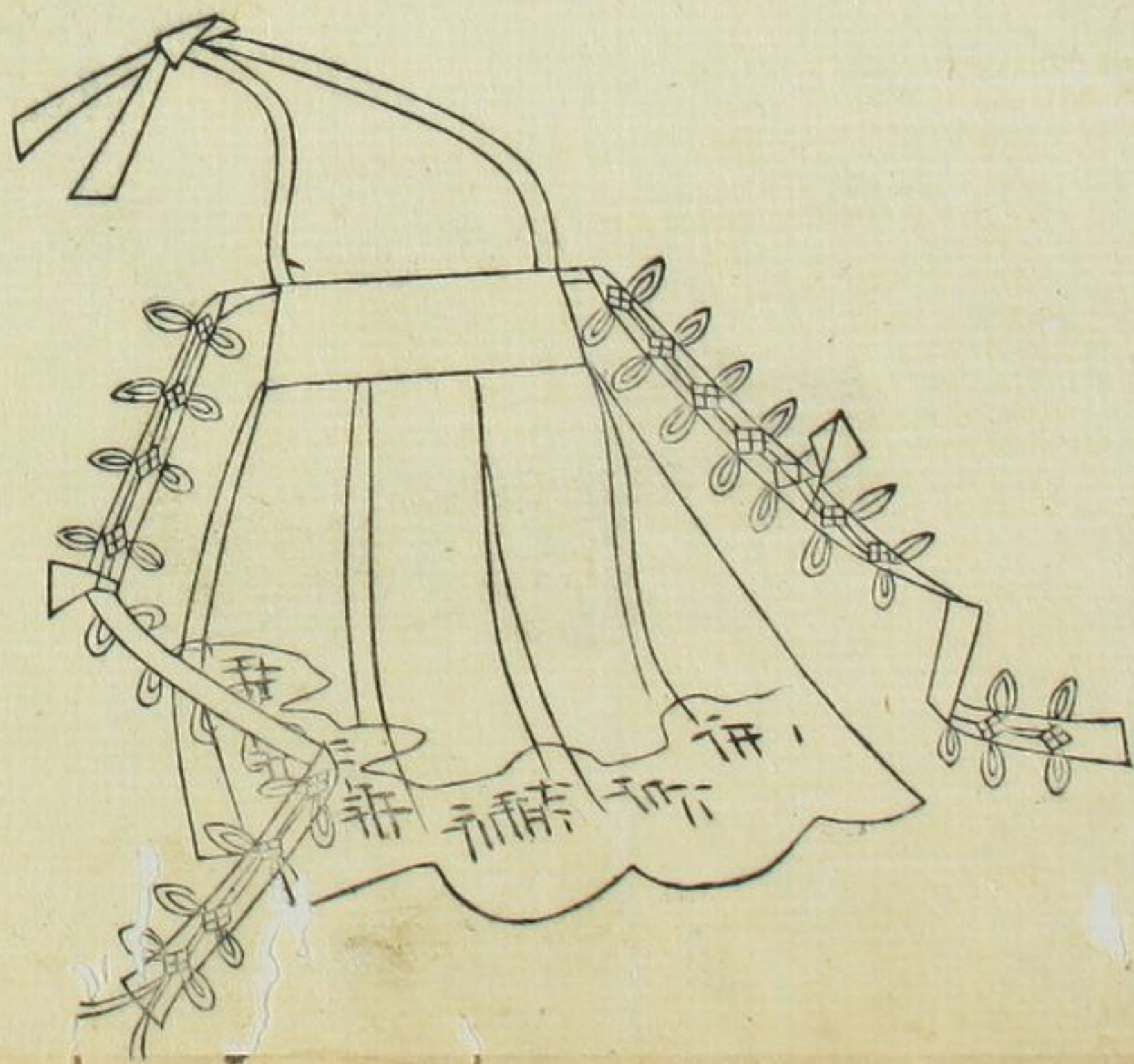
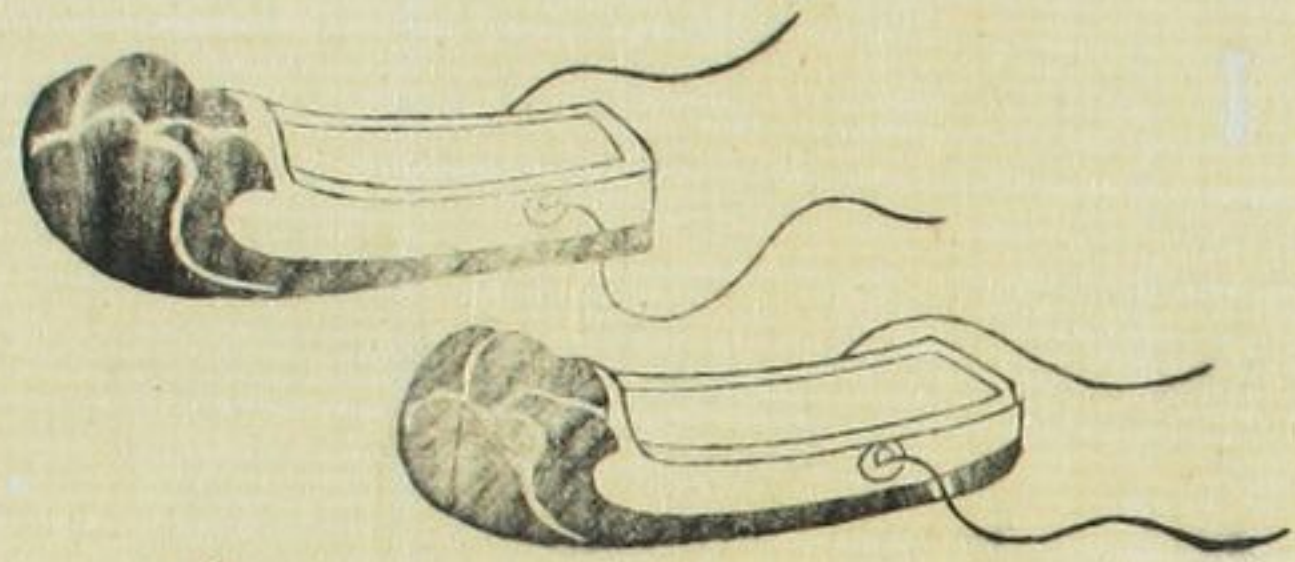


くま



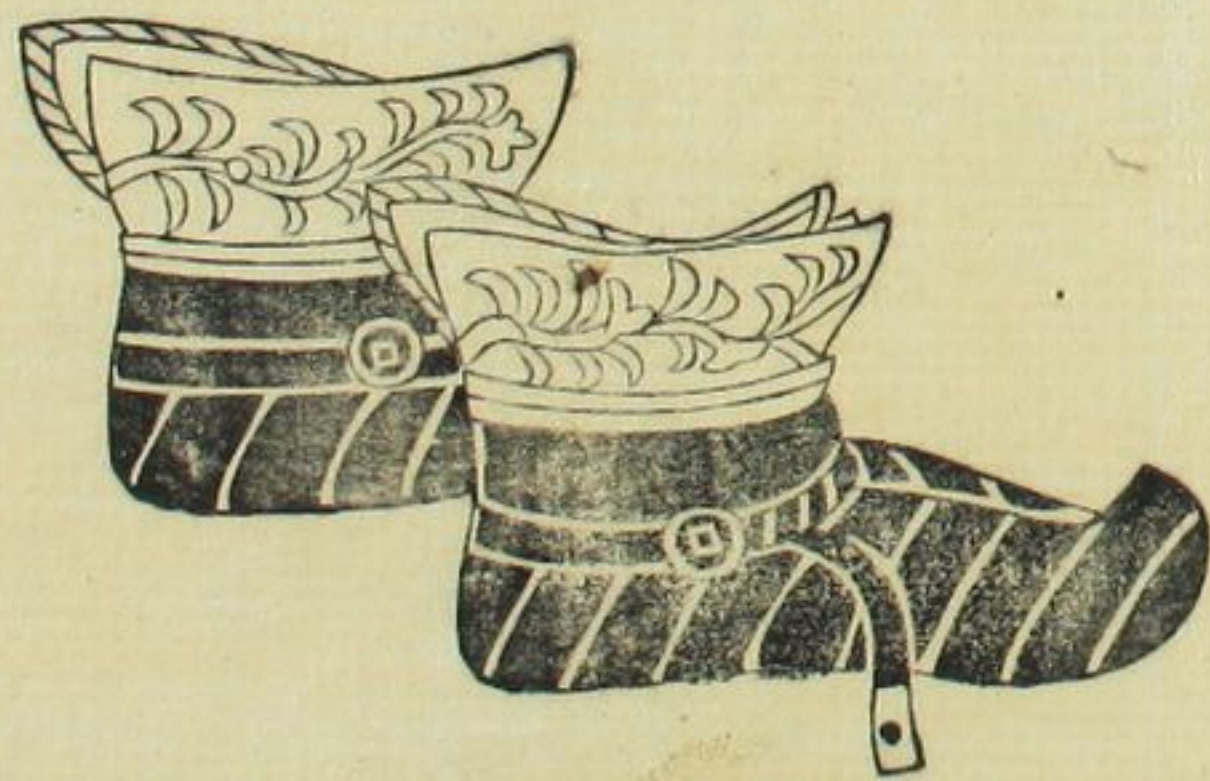
中少のらう大層大のまをまて着るの物
白綿練のや實^クまわりのとえは用ゆ
裏は紅打平絹也最手敷官^ニまて
らば

履^多
くまわり

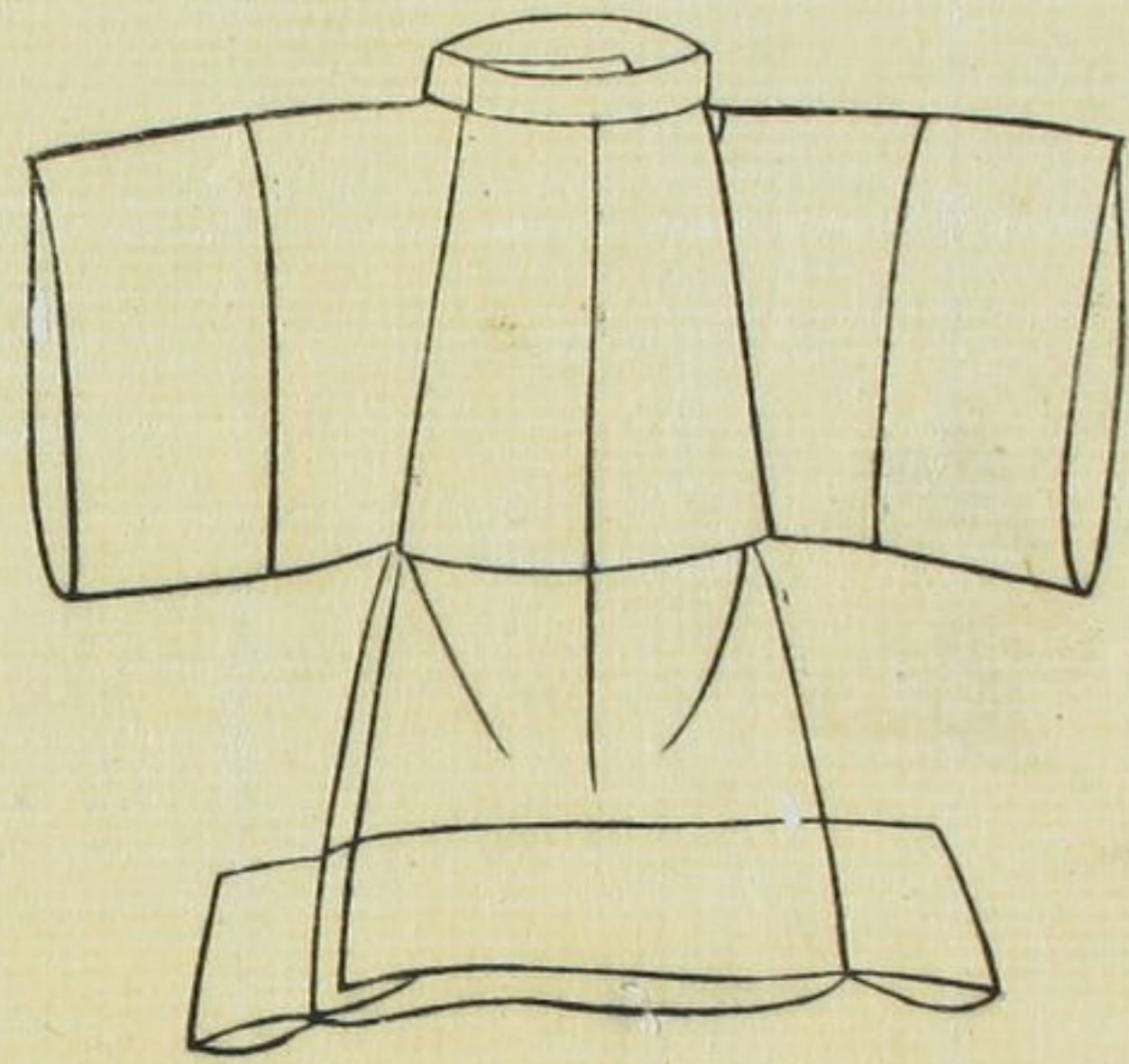


裾^多
きよふゆ人のがま

靴^多

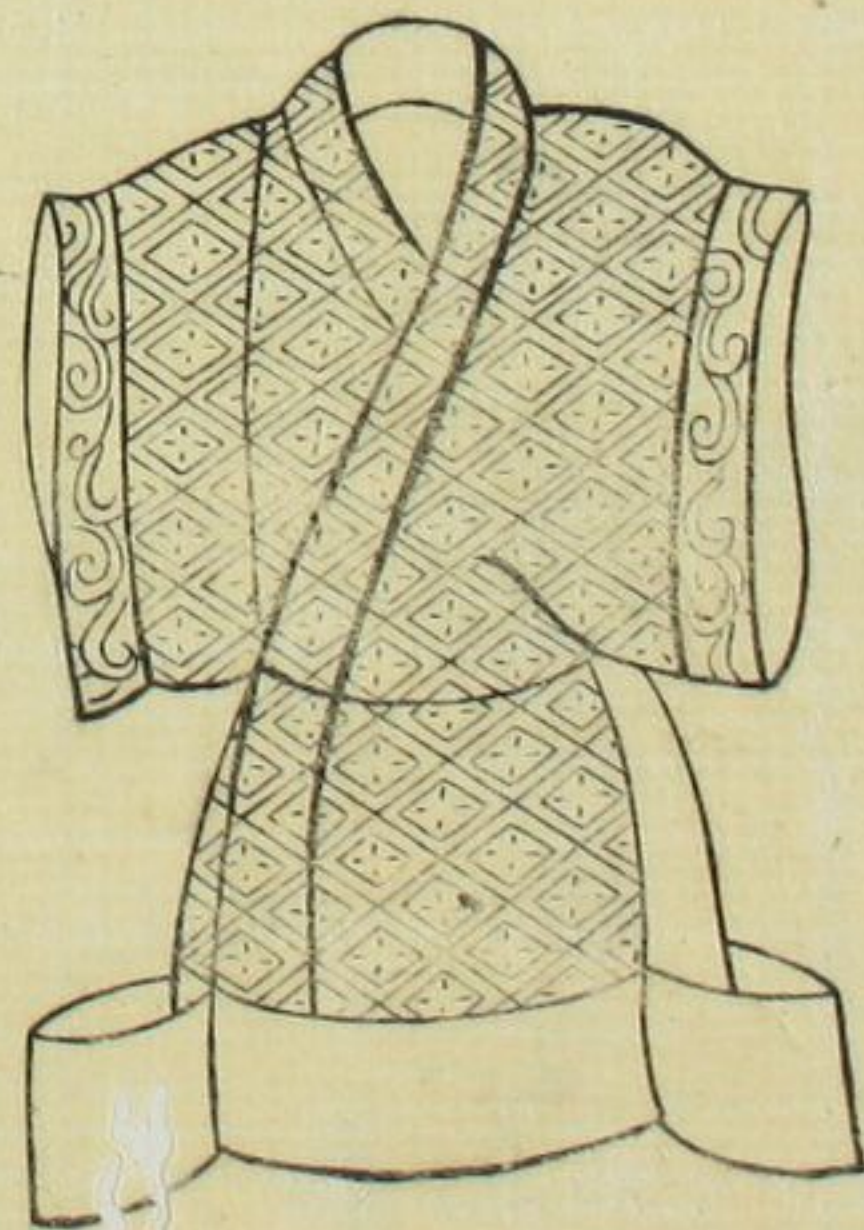


袍ほろ へんのまぬちあくの多行り



大はまの袍の文下子尾者紫也指圖
なりや立涌の文大周の時や二つ分地
らゆるらるの後也形多く有り

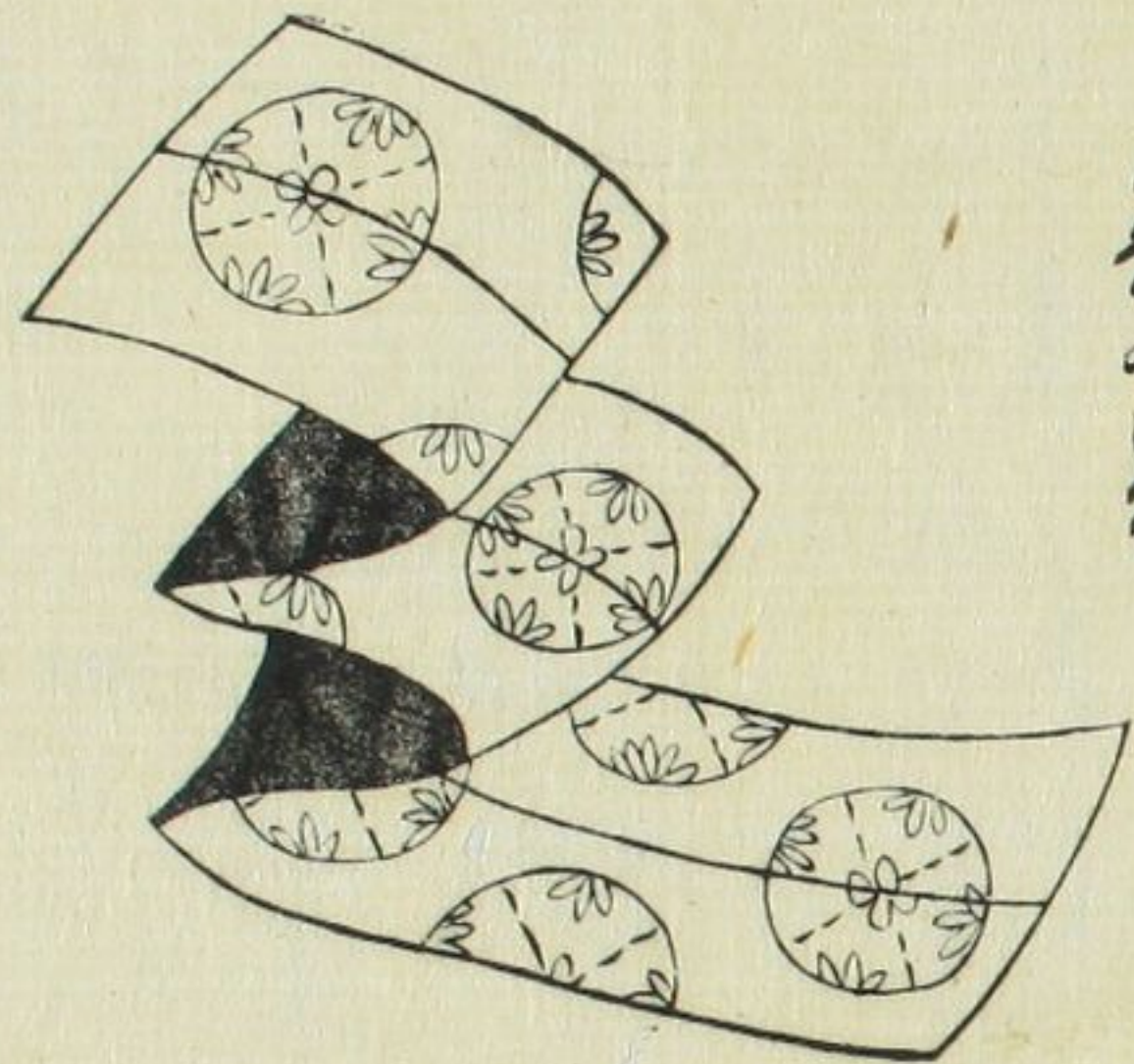
半はん 習しゆい



冬は後減少しねよそめて極引きて
夏は多しの穀文又少ねま
り

裾すそ

まぬのしをむしはけえ
系とれは裾りまよふてま
るあてま



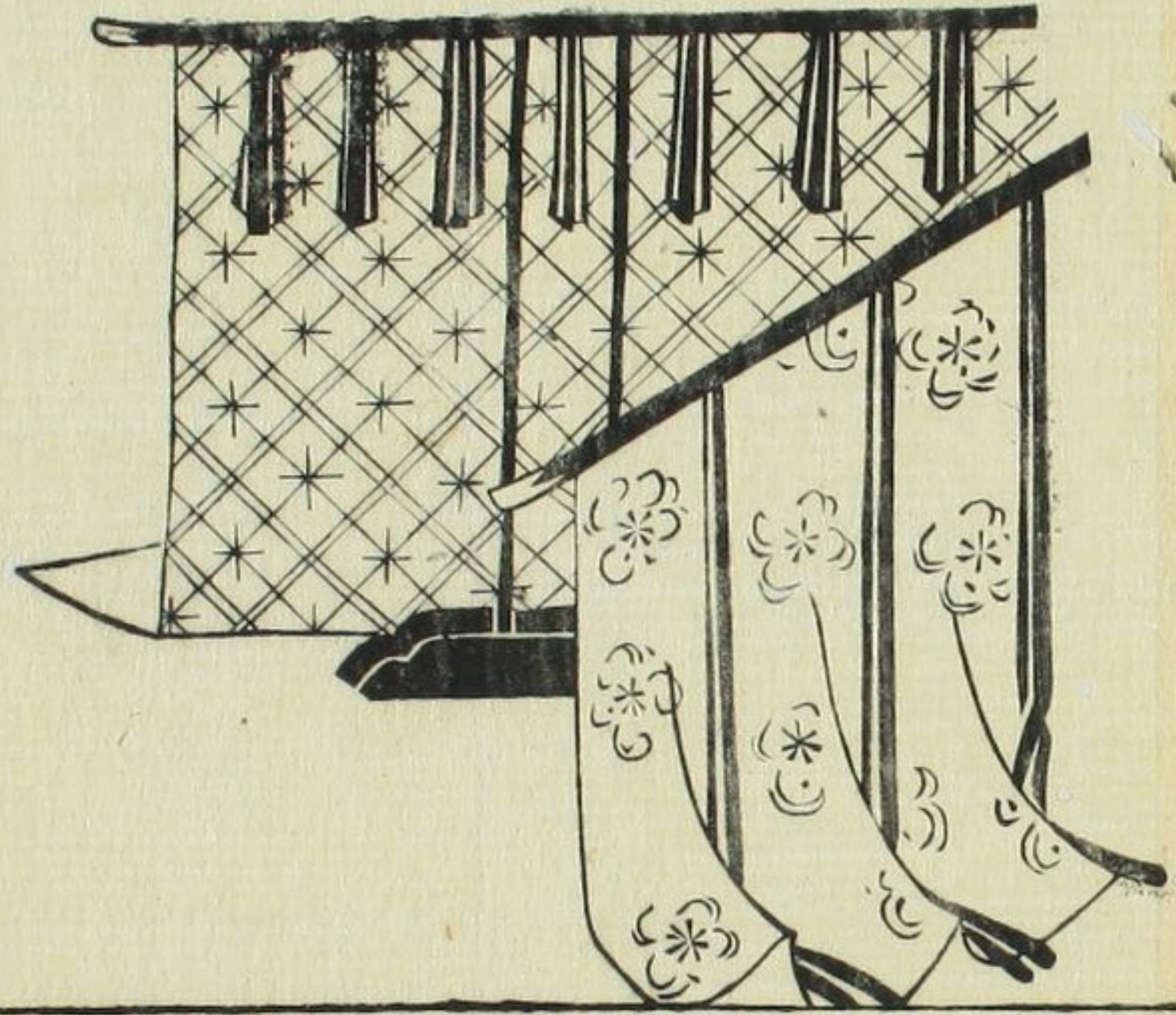
指家の納言は八尺大指一丈四寸
の一丈二尺許也又時々ま

帯おビ



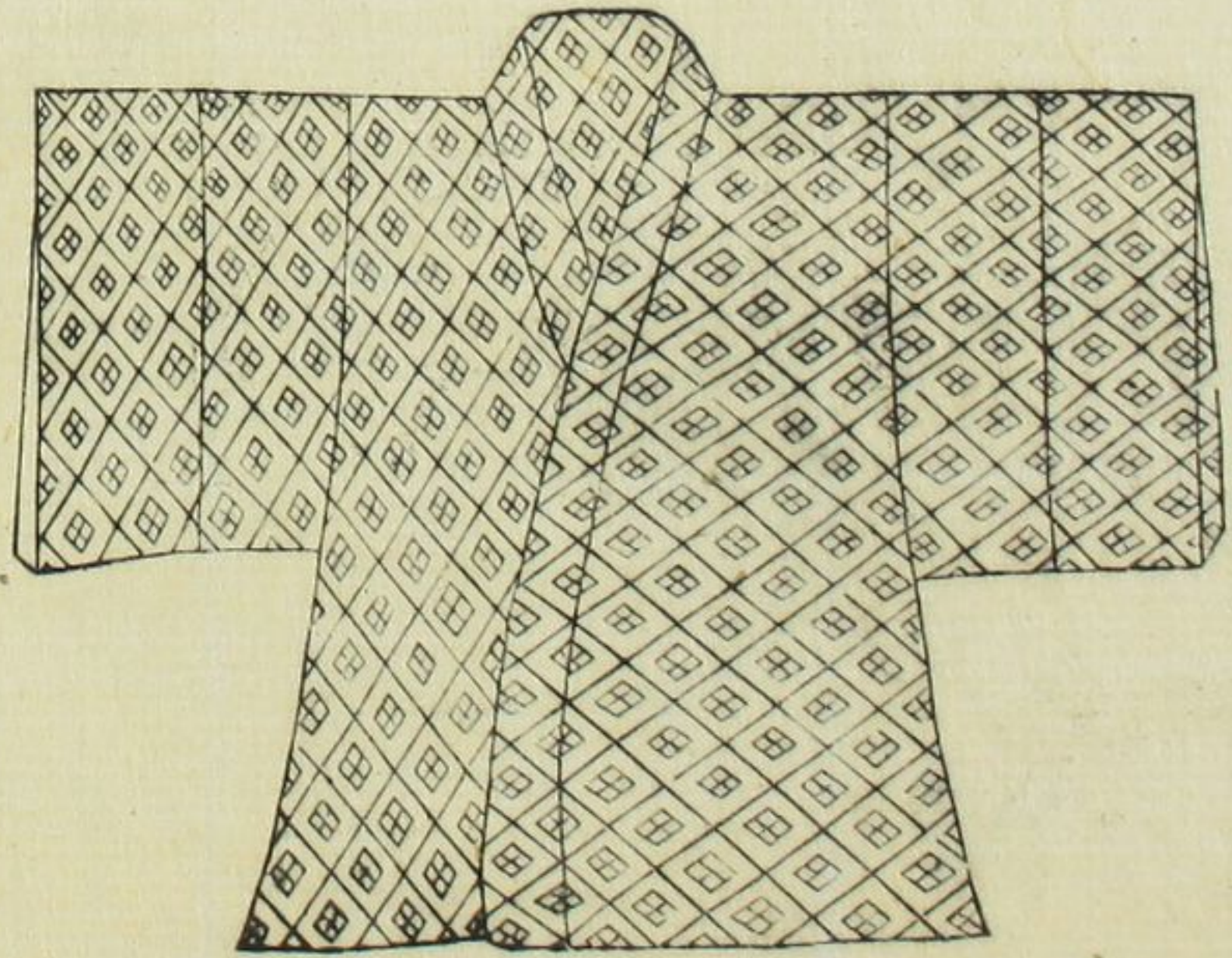
葛帳 屏角 葛帳
 官の高下より名をよむ

葛



絳帳 几帳
 三尺四尺の幅より名をよむ

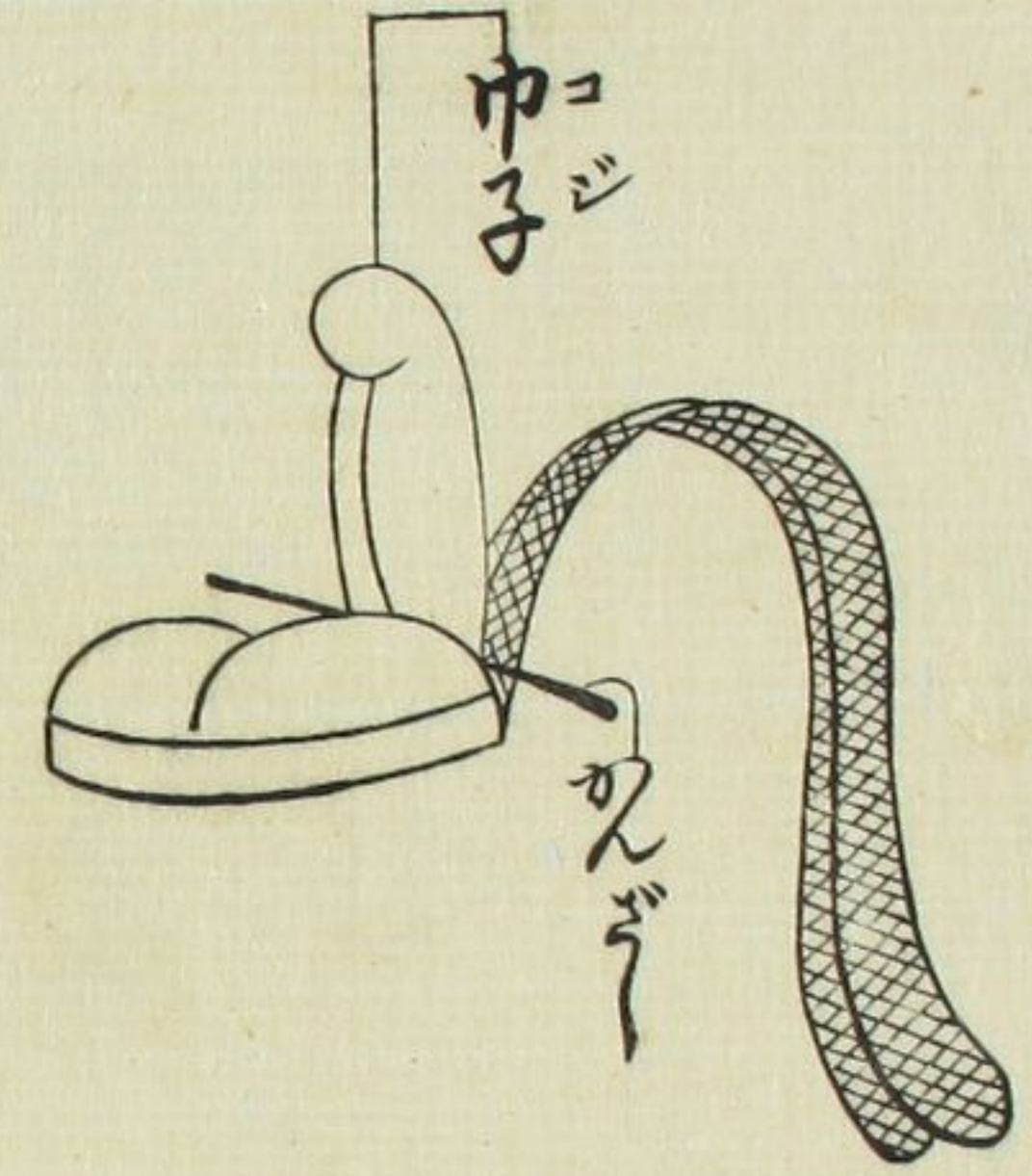
汗衫 ^{アサギ}
 葛の汗衫



志と縁 世俗の蒲團



かつりの大小其人の形よりし

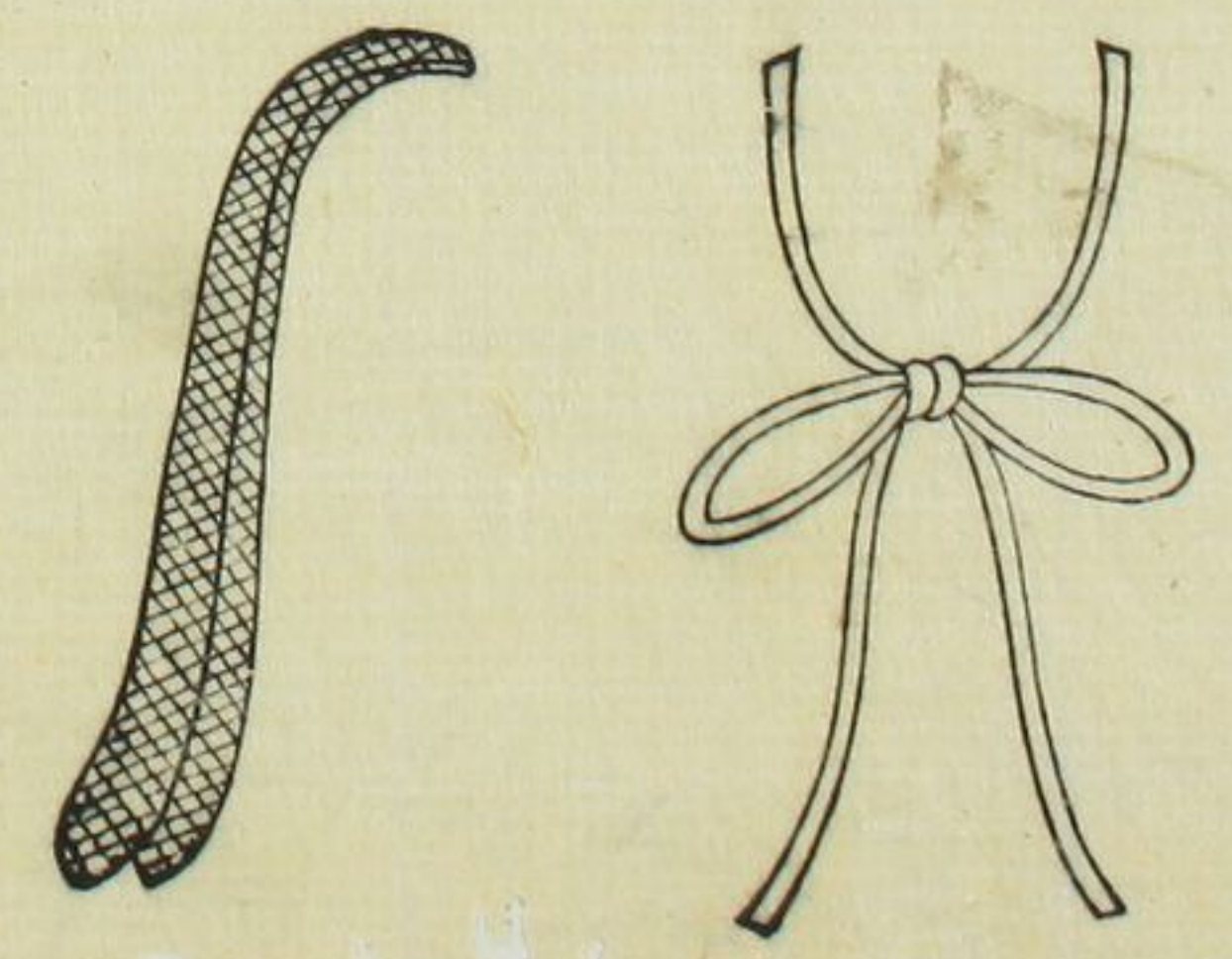


十五歳まへうと額十六歳已後ハ
厚額用、而記、若年、沙下
の人ハ十六已後ハ、控落家、用一

長壁國在、焦、傍、東、
捕魚水中、兩子、各、操、
一魚、
是、も、か、つ、り、に、し



纓冠系也、今變、為、逆、尾、
亦、因、謂、之、纓、別、設、系、為、結、



長股之國在赤水東 一曰長脚

是行多日也 右二圖 山海經



注女物之長也
 物當如道之長也
 之河以方以及此物
 又之長也
 之長也
 之長也

昔^シ海^{ウミ}一^{ヒト}滴^{シツ}有^ル者^{ナリ}人^ノ
知^ル之^ヲ一^{ヒト}受^ケ者^{ナリ}其^ノ年^ヲ
乞^フ之^ヲ一^{ヒト}受^ケ者^{ナリ}其^ノ年^ヲ
一^{ヒト}受^ケ者^{ナリ}其^ノ年^ヲ

惟中

白文

